

<大震災発生時を想定した図書館シミュレーションプログラム:タイムテーブル(兼ナレーション等シナリオ)>

通番	現実時刻	訓練時刻	ナレーション/防災センター	望ましい対応	アクション
0	13:00	10:00	【緊急地震速報の音声と画面表示】 岡本「小刻みな揺れが数秒続いた後、突き上げるような揺れが発生しました。地震です。」 岡本「事務室では、ロッカーが倒れ、棚や机の上から物品が落下しています。」 岡本「カウンターでは、明らかに書架が大きく揺れているのがわかります。本が書架から落下しました。」 【スライド切り替え表示(YouTubeも)】	身の安全を守りつつ、 ・事務室職員は館内放送を行う。 ・カウンター職員はカウンターからの呼びかけを行う。 ※呼びかけ事例: ・「落ち着いてください。」 ・「本棚から離れてください。」 ・「机の下に入ってください。」	
1	13:03	10:03	岡本「いままでに経験したことのない揺れが収まりました。館内では学生の悲鳴が聞こえます。」 岡本「自分自身、かつてない恐怖に膝が震えているのがわかります。」 岡本「周囲を見渡すと、さっきまで使っていたパソコンの画面が消えています。停電したようです。非常灯が点灯しています。」 嶋田「こちらは防災センターです。ただいま非常に大きな地震が発生しました。本学を含む都内一帯で震度6強を観測しています。全学生・全教職員は、余震の発生に注意しながら、安全を確認して、慌てずに建物の外の広い場所へ避難してください。」	身近な職員間で安全確認をしあう。 即座にこの次の行動をお互いに確認しあう。	
2	13:05	10:05	岡本「ナビゲーターから封筒(1)を受け取り、開封してください。そこに現在発生している状況の一部が記載されています。」 岡本「そこに記載されている内容を事実と考えて、行動してください。これからとる行動は模造紙や付箋に記録してください。」	事務室とカウンターの職員間で状況を共有する。	事務室:職員1名負傷(重傷・軽傷) カウンター:書架倒壊、利用者殺到
3	13:10	10:20	岡本「ナビゲーターから封筒(2)を受け取り、開封してください。そこに新たに判明した状況が記載されています。」 岡本「そこに記載されている内容を事実と考えて、行動してください。これからとる行動は模造紙や付箋に記録してください。」 嶋田「こちらは防災センターです。さきほど非常に大きな地震が発生しました。まだ、建物内に残っている学生・教職員は、余震の発生に注意しながら、安全を確認して、慌てずに建物の外の広い場所へ避難してください。」 岡本「防災センターの放送を聞いて、学生たち利用者が2Fの事務室前に集まってきました。ぱっと見たところ、100名ほどの学生の姿が見えます。停電により自動ドアが開かないようです。」 岡本「地震の発生から10分が経過しています。いま自分たちが置かれている状況で最善の判断を下し、迅速に行動してください。」	全職員間で情報共有を行う。 (重傷利用者の救護を行う)。 行方不明利用者の捜索を目安を定めて行う(同時に見切りをつける)。	閉架書庫内での大規模倒壊 (重傷利用者の判明) 死者・行方不明利用者の存在判明
4	13:20	10:40	嶋田「こちらは防災センターです。まだ余震が続いています。建物内にいることは大変危険です。まだ、建物内に残っている学生・教	避難方針の確定 避難ルートの検討(自動ドアの開閉) 一次避難の開始	
5	13:30	11:00	岡本「全職員・全利用者の図書館の外の広い場所へ避難が終わったでしょうか。」 嶋田「こちらは防災センターです。建物の外の広い場所に避難したら、各施設の責任者は、現在、判明している状況を防災センターに報告してください。」 ※模造紙に記入してもらおう。	一次避難を完了する。 防災センターへの報告を完了する。	
6	13:30	11:30	岡本「ナビゲーターから封筒(3)を受け取り、開封してください。そこに新たに判明した状況が記載されています。」 岡本「そこに記載されている内容を事実と考えて、行動してください。これからとる行動は模造紙や付箋に記録してください。」	行方不明利用者の捜索を目安を定めて行う(同時に見切りをつける)。 精神的に不安定な利用者へ寄りそう。 (負傷者の救護を行う)。	行方不明利用者の訴え 号泣する利用者 (避難した負傷者)
7	13:40	11:50	嶋田「こちらは防災センターです。まだ余震が続いています。また、都内の一部地域で火災が発生しています。交通機関は全面的に停止している模様です。また、東京湾沿岸部には大津波警報が発令されています。」 岡本「ナビゲーターから封筒(4)を受け取り、開封してください。そこに新たに判明した状況が記載されています。」 岡本「そこに記載されている内容を事実と考えて、行動してください。これからとる行動は模造紙や付箋に記録してください。」	少人数グループでの荷物の取り出しを行う(同時に見切りをつける)。 行方不明利用者の捜索を目安を定めて行う(同時に見切りをつける)のと併行して、行方不明利用者の氏名等を防災センターに届け出る。 図書館の旋錠方針を確定する。	荷物取り出しの希望 引き続き行方不明利用者の訴え 貴重書の扱い
8	13:50	12:10	嶋田「こちらは防災センターです。気象庁の発表によると、引き続き大きな余震が発生する可能性があるとのこと。建物の中には絶対に入らないでください。」 嶋田「こちらは防災センターです。現在までの情報を総合すると、学生・教職員の皆さまの帰宅には相当な困難が予測されます。学生・教職員は無理に帰宅しようとせず、総合体育館に避難してください。総合体育館は耐震設計が十分になされており安全です。慌てずに総合体育館に移動してください。」 嶋田「こちらは防災センターです。いま伝えましたように、帰宅せずに総合体育館に避難してください。大学職員は、学生等の避難を誘導してください。」	荷物の取り出しを中止する。 行方不明利用者の捜索を中止する。 旋錠方針に従って、図書館を旋錠する、あるいは旋錠しないままにする。	
9	13:55	12:20	嶋田「こちらは防災センターです。総合体育館に避難したら、各施設の責任者は、現在、判明している状況を防災センターに報告してください。」 ※模造紙に記入してもらおう。	二次避難を完了する。 防災センターへの報告を完了する。	二次避難の完了、生存者・死者・行方不明者の把握
10	14:00	12:30	岡本「訓練はこれにて終了です。皆さま、お疲れ様でした。引き続き、講評に入ります。講評はいまランチ休憩後の2回行います。ここでは、本プログラムを監修して下さった総務省消防庁防災図上訓練指導員、防災ファンリテーターである鈴木光さんより行います。」		
11	-	12:45	岡本「講評を終わります。この後は1時間のランチ休憩となります。再開は13:45です。再開後は15分間、小陳左和子さん、佐藤恵さんから、昨日のご講演や実際のご体験を踏まえた講評を行います。皆さま、お疲れ様でした。」		



本資料はクリエイティブ・コモンズライセンスに基づき利用できます。

